木蓮

寺田寅彦

白木蓮は花が咲いてしまつてから葉が出る。その若葉の出はじめには実に鮮かに明るい浅緑色をしてゐて、それが合掌したやうな形で中天に向つて延びて行く。丁度緑の焔をあげて燃ゆる小蠟燭を点しつらねたやうにも見える。

紫木蓮は若葉の賑かなイルミネーションの中から派手な花を咲かせる。濃い暗い稍（やや）冷たい紫の蕾（つぼみ）が破れ開いて、中からほんのり暖かい薄紫の陽炎（かげろう）が燃え出る。さうして花の散り終るまでにはもう大きな葉が一杯に密集してしまふ。

桜でも染井吉野のやうに花が咲いてしまつてから葉

の出るやうな種類が開花の魁（さきがけ）をして、牡丹桜のやうな葉と一緒に花をもつやうなのが、少しおくれて咲くところを見ると、これには何か共通な植物生理的な理由があるらしい。

人間でもなんだか、これに似た二種類があるやうな気がするが、何が「花」で何が「葉」だかが自分にはまだはつきり分らない。

底本：「花の名随筆４　四月の花」作品社
　　1999（平成11）年３月10日第１刷発行
底本の親本：「寺田寅彦全随筆　第六巻」岩波書店
　　1992（平成４）年５月
入力：もりみつじゅんじ
校正：多羅尾伴内
2003年４月28日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんで

す。